

議員定数に関する市民説明会会議録

会議年月日	平成25年2月2日（土）		
開 会	午後1時30分	閉 会	午後2時30分
場 所	国府町中央公民館		
出席委員 (4名)	副委員長 上紙 光春 委 員 有松 数紀 谷口 秀夫 両川 洋々		
傍 聴 者	152名		
本日の会議に 付した事件	(1) 議員定数改正に向けた取り組みの経過 (2) 市民アンケート調査結果 (3) 質疑応答・意見要望		

◆有松議員 皆さん方の御質問をお受けさせていただこうというふうに思いますけれども、できるだけ多くの方々に御意見をいただきたいというふうに思っておりますので、お一人1回という事で、せいぜい2項目程度までに質問はとどめていただければありがたいなというふうに思いますので、御協力方よろしく願いいたします。

もう一つ待って。それともう1点、きょうの皆さん方の御質問は、我々議会の方で控えさせていただいて、また後の活動にも役立てようという思いもしておりますけれども、本日どうしても回答ができない部分もあろうかというふうに思います。そういった部分に関しては、後ほどになりますけれども、ホームページ等で回答させていただくということになるかと思っておりますので、御承知おきをいただきたいと思います。

それでは、挙手していただいて、お名前を言っていただいてから御質問に入っていただきたいと思っております。

どうぞ。

○質問者A Aと申します。まず、定数削減の意味ですけれども、私は定数削減には反対です。といいますのは昔からいい議員ばかりが出るというわけにはいきません。グレシャムの法則の悪貨は良貨を駆逐すると言いますが、選挙に強い議員が必ずしもいい議員とは限りません。なるべくたくさん議員が出た方が市民の意見は通るというふうに思います。そしてもしも経費の削減というものが目的であるならば私は議員のボーナスをやめれば十分に目的は達成するんじゃないかというふうに思います。以上です。（拍手）

◆有松議員 Aさん、これは答弁は要りませんか。

○質問者A ええ。

◆有松議員 ありがとうございます。

それでは、そのほかの方。

奥の中ほどに座っていらっしゃる方、どうぞ。お名前をお願いいたします。

○質問者B Bといます。質問の前に、昨年の市庁舎に関する特別委員会、これが26回開催されたということですが、あの模様をケーブルテレビ、いわゆるぴょんぴょんテレビというんですか。

◆有松議員 Bさん、済みません。恐れ入ります。この1部に関しては議員定数ということで。

◇質問者B 議員定数の前に、ちょっとそのことを言いたい。

◆有松議員 それで庁舎の関係した部分に関しては2部の方で十分時間をとりたいというふうに予定をしておりますので。

○質問者B いや、2部の質問もしますけども。

◆有松議員 1部の方の質問に限ってお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○質問者B いや、2部の質問もする。だめですか。

◆有松議員 議員定数の方の質問に限ってお願いします。

○質問者B じゃあ、議員定数の質問しましょう。

◆有松議員 よろしくをお願いします。

○質問者B 先ほど32名にするんだという説明がありました。自治連合会の方からは26名にすべきだと。なぜならば全国の平均が、10万から30万ぐらいの都市の平均が25、6名だということで、そういう説明があったわけですけども、私はそうすべきだというふうに思います。議員の皆さんは地域の意見を反映させるために必要なんだということを言われますが、今の議員さんで果たしてどれだけ地域の意見を酌み取って議会に反映させておられるんですか。そういう議員さんが何人おられるんですか。(拍手) 1人に、1月号の市報にもありますように、歳費ほか、ほかのところははっきり書いてないからわかりませんが、年間に恐らく1,000万ぐらいはかかるとるんじゃないかというふうに思われます。10人減らせば1億浮くんですよ。さっき質問の方に経費を減らすだけではだめだ、というような趣旨の質問があったと思いますけども、国を挙げて今、行財政改革ということで国挙げてやるとるんですよ。鳥取市においてもぜひそれを実行していただきたい。ぜひ10名減の26名程度を早く実現してやっていただきたいというふうに思います。

それから今回の説明会、5地区において説明するということですけども、今日集まるとる人というのは恐らく国府町と福部町が主な対象だと思います。旧市内から来とられる方もおられると思いますけども、福部町と国府町の人口がですね、ざっと1万2千2、3百ぐらいですわ。今日来とられるこの数、1割おられますか。1割といたら千二、三百人なりますけども、多分ここに来とられるのは何人、100人か150人か、そんなもんでしょ。0.1、2%ぐらいですよ。これで市民説明会ができたというふうに議員の皆さんは言われるんですか。恐らくこの傾向はどの会場においても同じだと思います。こんなことで市民に説明したというふうに言われるのかな。今後の方針をきちっと回答していただきたい。議員定数とあわせて回答を求めます。以上です。(拍手)

◆有松議員 2点いただいたというふうに思いますけれども、上紙副委員長、よろしくお願ひします。

◆上紙議員 お答えをしたいと思います。

先ほどの御意見を含めて市民の皆様思われる意見はもつともだろろうと思ひます。一つは、自治連合会の方が出して要望している10人減らせということを守ってくれるべきじゃないかという意見が一つあったらと思ひます。これについても議論をしたわけですが、例えば特例市、今40市ございますけれども、反論をいただくかもしれませんけども、765.66(km²)という広範な面積を持っているのは40市のうちで長野の松本市をトップに4番目の市域になっております。市域じゃないと、市域の中でどれだけの議員が活動してるかという御指摘もありまして、それもそうだろろうと思ひますし、努力の足らないところもあろろうと思ひます。

ただ、もう1点、人口比で割り出すということにつきましては、これも一つの要素として大事な要素ではございますけれども、例えば境港市3万6千(人)でございますね。どうしても、それで議員が16名です。市町村規模が少なくなれば効率が悪くなるということは、これはやむを得ん現象でございまして、例えば神戸市150万(人)ですが、69名です。これ2万人に1人あったらいいというふうな計算になるわけでございます、大体そこら辺のバランスをどうとっていくか、これ難しい問題であろろうと思ひます。今後の皆さんの意見を聞きまして、今回については、我々検討委員会で議会の皆さんすべてに御了解いただければ4人減ということで条例提案をさせていただこうと思ひますけども、今後の大きな課題として同時に今いろいろ何人おられるかと、立派に活動してる議員がという、それも私自身も反省しております。そういうこと含めまして今、議員の内部でも新しい議会改革の特別委員会というのも立ち上げるように合意ができております。これも早く立ち上げましてそういう声にこたえるにはどうしたらいいかということを実際に議論をしていただくという段取りになっておりますので、ひとつその辺のところも御理解をいただきまして、ひとつ理解をちょうだいしたいと思います。以上でございます。

◆有松議員 もう1点、副委員長、こういった会を催すに当たって、なかなか会場に多くの方がいらっしやらないという部分に関してどうだという質問がございましたけども、回答はできませんでしょうか。

◆上紙議員 大変それもそのとおりだろろうと思ひますけれども、こうしてじゃあ、全集落くまなく説明会をしたらどうだというふうなことも逆説としてあるかもしれませんが、やはり我々が本当に皆さんのおしかりもしっかりと受けとめなきゃならんですけれども、例えば先ほどのアンケートにもございましたように議員の定数が36人だったようなこと知らなかったというかなりのウェートを占めてる。それから広報を讀んでいただけ、何%あるかということについてもなかなか讀んでいただけないというふうな、これ我々の責任もありますけども、市民の皆さんにもやっぱり興味を持っていただいて、今日出ていただいとらん、出ていただいとらんということではなくして、ひとつそういった協調性のある御理解も賜りたいもんだなど。これは生意気を言ったり失礼な意味ではございません。その辺を御理解をちょうだいしたいと思います。済みません。

◆有松議員 ありがとうございます。

引き続き質疑をお受けしますけど、その前に、ちょっと申しおきました。皆さん方にお配りしておる資料の中の3ページでございます。記載部分に誤りがありましたので、訂正をさせていただきたいと思っております。上段の鳥取市議会議員の定数の推移というところでもありますけども、右側の合併特例法の規定による経過措置という部分で一番下に旧青谷町1ということになっておりますけれども、これは2でございますので、改めて訂正をさせていただき、おわびを申し上げたいと思っております。よろしく願いいたします。

どうぞ。

○質問者C 私は、定数を削減すべきじゃないという立場で……。

◆有松議員 済みません。初めにお名前をいただけませんか。

○質問者C Cといいます。定数は現状維持でいくべきだという立場で質問をいたします。先ほどの特別委員会の中間報告がされましたが、その中で市民アンケートでは、回収率が非常に少なかったけども、議員定数を現在減らすべきだという意見が59%あった。また、現在のままでいいが12.7%、現在より増やすべきが1.7%であったと、それに自治連が10人削減を陳情されていたというようなことも報告されましたが、その中で、この中間報告の中で慎重論や現定数を維持すべきなどの意見もあったが、賛成多数で現在の36人から4人削減し、32人とする意見でまとまったことを報告しておりますというふうに報告しておりますが、この具体的に慎重論や現定数を維持すべきだという意見の中身について質問、伺いたい。その中身については報告されておられませんから。

それとあとこのアンケート、非常に分厚い、15ページにわたるアンケートがされております。それもホームページから読ませていただきました。その中でアンケートでは、議員から意見や要望を聞かれたことがありますか、との問いには、ないという答えが89.7%、議員に要望や意見を伝えたことがありますかについてはないが78.4%、市民の意見が議会に反映されてるかについて思わない、わからないが合わせて74.85%、市議会を評価しますかについて余り評価しない、評価しないが合わせて85%あります。この非常に厳しい評価を市民はアンケートの中で議会に突きつけてるわけです。この実態を見れば議会が今の地方自治の立場からいかに自己分析を進めて改革をし、市民の中に入っていか、そのことが問われてるんじゃないかというふうに思います。その点で議会側は、先ほど新議長が議会改革についても検討してると言われましたが、どのような改革を目指しておられるのか、その点を伺いたいと思っております。

それと最後に、特に先ほどの合併前の議員の数言われましたが、旧市町村の合併前の各市町村別の議員全部合わせると140人あったわけです。それでこの議員の人たちは、地域に入って十分皆さん、町民、市民、有権者の皆さんの声を聞いて活動しておられたと思っておりますが、これが合併して36人、現在の数字まで下がってきておるわけです。そういう点から言いますとこの36人ではまだまだ十分市民の声が議会に反映されない。先ほどのアンケート結果にもあらわれております。そういう意味で市民の意見が市議会に反映されるようにするには現状の36人を維持すべきだというふうに考えます。以上です。

◆有松議員 Cさんに少し確認をさせていただきたいと思っておりますけど、3点ほど言われましたけども、基本的に答弁が必要な部分に関しては現状維持という議会の委員会の中での意見の中身

はどうだったのかということでもよろしかったですか。

それとアンケートのすることについてお尋ねをいただきましたけど、このことに関してはコメントは必要でしょうか。皆さん方には多分その表はお手元にはないというふうに思いますけども、アンケートの状況について説明をいただきましたけど、この部分に関してもう少し質問の意図をまとめていただけたらというふうに思います。

それともう1点、合併前は140人いた議員が現在36という部分に関して、これは質問の部分はどういうふうな回答を求めておられるのか、もう少し御意見をまとめていただければというふうに思いますけども。

○質問者C 合併前140人あったわけですから、それだけに市民の皆さんの意見を十分聞いとる、活用がなされておったと思います。そしてこの36人というところに減らされ、先ほど私述べましたアンケートの結果にもあらわれているように、市民の声が全く反映されてない、あるいは議会を評価するにも中身がない、というふうな非常に厳しい指摘がアンケートに出てきたと思います。このアンケートからすれば議会側が非常に厳しい評価を突きつけられたわけですから、それに対して議会は改革するという事は発言されましたけども、具体的にどのようなことを考えておられるのか、この辺を答えていただければと思います。

◆有松議員 なかなか難しい質問が出ましたけども、上紙副委員長。

◆上紙議員 大変難しい質問いただきました。まず、合併前の議員140名余りいたわけですけど、それが36人になったらなかなか活動できないから不足が出てるんじゃないかというふうな御趣旨の発言ございましたけれども、それもあるかもしれんけど、むしろ私は、私の例ですけど、ほかの議員さんは私以上に活動なさってるように感じておりますけども、やっぱり議員そのものの活動が範囲が広がってなかなか皆さんとお会いするというようなこともどうしても少なくなったということが大きな原因、議員の努力の方の努力不足の方が大きな原因ではないかというふうな感じがいたしております。それはアンケート等についてのことだと思います。

それから議会改革について具体的にどのようなことを改革しようとなささるとるかということ、これも今後、議会改革の特別委員会ができますので、私が定数の委員の一委員として今後どうやるべきだということは、これ適切でないと思いますんで、答弁は差し控えさせていただきますけれども、先ほど申し上げましたようにいろいろな面で、例えば議会の声、市政の声が我々に届いてこないというんでしたら個人プレーでなしに、私は用瀬町の出身ですけども、用瀬町の皆さんだけに説明するんでなくして、青谷や鳥取の方も含めてそういうところに出かけて行って顔が見え、対話をし、というようなこと、個人的にもそういうことがあるのかなでございまして、思ったりしますけども、いろいろな面で改革されるだろうと思っておりますんで、それ以上のコメントは差し控えさせていただきますと思います。

◆有松議員 結構だと思います。

そのほかの方でございましてでしょうか。

中ほどにお座りの方。

○質問者C どういう意見が、具体的な論議の内容というのは。

◆有松議員 一番初めに言われましたけども、現状維持という部分に関して委員会の中でどう

いった議論があったのかということに対してお答えいただけますでしょうか。

◆**上紙議員** 現状維持というのをどなたがどういうふうに議論されたかということは控えさせていただきますけれども、9人の委員の中で一部そういう意見ございました。それは今御自身がおっしゃったような意見も当然含まれておりますし、それから今度32人にいたしますという常任委員会の委員会数、8人の4委員会、今、鳥取市の880億という予算審議の中でとても常任委員会別に4委員会で分担しないと、全員協議会あるいは全員が審議するで何日かかっても終わらないというふうなこともございますし、そういう中で例えば大学の先生なんかも、通常ですよ、定義はございませんけれども、常任委員会の数は7人から8人じゃないだろうかというふうなことおっしゃってる先生もおられるんですけども、そういった中で例えば8人に、今回32と8人と仮定されるわけですけども、1人、委員長は採決に加わりませんから、7人になります。7人が議論するということですけど、7人でも、私も経験は短いんですけども、そう多い人数での議論にはならないんじゃないかというふうなことが一つあると思います。大体そういうことで本当の意味でやっぱり議会のこのたびの庁舎問題はある意味では厳しいチェックを市長にかけたということだろうと思うんですけども、そういったいろいろな意味であんまり議員数が減りますと機能がやっぱりなかなかできんようになるんじゃないかと。特にそういう意味で、先ほどの合併のことにちょっと加えさせていただきますけども、佐治町と福部町、今議員さんがなくなっております。この間佐治の梨の会合に上がらせていただきましたら二、三の方がもう一度小選挙区に戻ることできないかというふうな意見もいただきました。気持ちはわかるんですけど、これもとに戻すわけにはいかないと思うんですけども、そういったいろいろな面でやっぱり一気に減らすということは不適當ではないだろうかというのが皆さんの総意であったというふうに私は認識いたしております。済みません。

◆**有松議員** ありがとうございます。（「ちょっと補足」と呼ぶ者あり）

両川委員、どうぞ。

◆**両川議員** 済みません。両川洋々でございます。お二方の中から自治連からマイナス10減という要望書が出ておったがという質問がございましたので、一部補足をさせていただきたいと思えます。

自治連さん、現行36を10名減で26名という要望書、議会に、そしてこの委員会にいただきました。自治連さんの主張というのは、これは私たちにとっては、もう一方的な人口割という判断をいたしました。41市のこのたびの特例市の中に面積、市域と言います、市の面積が100平方以下、これは10キロ掛ける10キロで100平方になりますから、それ以下という市が8市、9市ほどあります。極端な例は、大阪の寝屋川市でございます。寝屋川は、人口24万ほどありますけど、総面積は24平方キロでございます。5掛ける5でも25平方になりますね。24平方、一辺が約5キロぐらい。車で走っても10分もかからんで隣の市に出てしまう、そういう100キロ未満の市が9市ほどございます。100キロ台の市が約10市ほどあります。総面積が200キロ台というのが5市、6市あります。鳥取の765平方より広いのは、41市の中で松本市が少し広いわけですね。

そうしますと単純に人口割で寝屋川がここまで下げとるんだったら鳥取市もどうだと、当然人

口割で下げていけえ、ということには少し我々にとったら乱暴な割り方じゃないかなという思いがございませう。単純に人口割ということになしに、鳥取市の765平方、先ほど言いましたように特例市41市の中で2番目に大きな市なんですね。それで合併をさせていただいた8町村、極端に言えば鳥取市がいかに中山間地を多く抱えたかという裏返しだろうと思ひます。たった車で行けば10分で隣の市に出してしまう市と、佐治のあの奥まで目を配らなきゃいけない鳥取市と私はちょっと同列にしてもらったら苦しいなという思いがございませう。

そういうことで自治連さんの要望書は、人口割で来ておられました。我々は、人口割プラス市のいわゆる特性ですね、地域特性と我々呼んでますが、そらあのお青谷、鹿野の奥から、鷲峰の奥から、佐治の奥から、そして国府町の奥から全部をやっぱり見届けていかなきゃいかんというのが我々議會議員の役目だろうと思ひておひます。そういう意味で10名減という要望はいただきましたが、先ほど申しましたように人口割プラス地域特性ということを加味して副委員長が申し述べましたように4名減というところに落ちついたというのが経過、経緯でございませう。補足をさせていただきませう。

◆有松委員 それでは、これまでの質問に関してはこれで終わらせていただきます。

じゃ、中ほどで手を挙げられた方、どうぞ。

○質問者D 今のお話……。

◆有松議員 お名前をお願いしたいと思ひます。

○質問者D Dと申しますが、今詳しくおっしゃってくださって、納得したところもあります。こういうところではなければほかの人もわからなかったし、中身が全然わからなくて、数しか市民もわからなかったと思ひますので、今長々とやっていただきましてわかったところもあります。でもいかんせんこれだけの人数ですので、伝わっていかないとはい思ひます。

そしてこの国府もずっと外れの方ですし、そういうこともあつて集まらなかったと思ひますけれども、これであと3回やるような予定なんですけれども、もっと大きなところで、最初市庁舎の問題が出たときは文化会館と大きなところでやりましたけれども、これからどこでやるのか知りませうけれども、発表してあるんですけれども、そうやってもうやつたと実績をただ積み上げていくということでやられるのかと思ひるととても納得できないということと、それから今この議員定数・市庁舎整備に関する市民説明会というべらべらの一つこれありますけれども、これには本当にメモ書き程度で、どこが主催してるといふことも何にも書いてありません。これは本当にメモ用紙としか受け取れないんですね。こういう不備な書類をつくってどう考えてるのかということなんです。

市議の方も出ていられますけれども、これの名前も出てるのでしょうか。それからこれだけの大事なことといふのは、市議の代表の方、議員、市長とか、それから議長が代表して言うべきものだと思ひますね、私は。これだけの人数を出してこれでよしとするということ自体がもう私は納得できません。ほかの方は納得できても。何かただまごとのようにやっているということしか私は感じませうです。それが意見です。これは私の感情論かもしれませうけれども、こういう説明会という体をなしてないといふか、基本的なことがとっても間違つてると思ひます。それでただ実績上げようといふことしか感じられませうということなんです。さっさと次の第2部にしてく

ださい。

◆有松議員 それでは、私の方から少しだけ御説明をさせていただきたいと思います。

きょうは、国府で皆さん方にこの場にこういう説明会立ち会っていただいておりますけども、同時開催として気高で同じような会を催しております。その部分に議長の方は出向いておるといことで、議員36人を半分に割ってできるだけ手分けをして皆さん方に納得いただけるような説明の会にできたらということ臨んでおりますので、その気持ちはお酌み取りをいただければというふうに思います。

○質問者D (聴取不能) ● に● してください。

◆有松議員 それと資料に関しては、不備な部分もあったかというふうに思いますので、これからまたこういった機会をつくる場も出てくるだろうというふうに思いますので、貴重な御意見としてお伺いしておきたいというふうに思います。

そのほかの方でございますでしょうか。手を挙げて、どちらでしょうか。

済みません。左の席の。

○質問者E Eといいます。議員定数に削減の賛成の立場で質問をさせていただきます。

中間報告の用紙の中で一番最後の方にありますが、活発な議論を行うためには1委員会8人とすべきという意見があったと。その根拠としては、先ほど副委員長の方から学識の方からもそうした7人か8人だろうということでおっしゃったわけですが、それに関連して現状の4委員会を維持すべきだということが出ておると。そうすればこの文面からすれば4委員会を維持するために32人必要なんだという逆算的な発想の中で議論がなされて答申といいますか、結論が出されたような私が思いがするわけです。

そこで仮に議員を30人にした場合にどうなのかなと思ったときに、4委員会で割れば7人ちょっとだと。これじゃ端数が出ていけませんと。じゃ、3委員会にして1委員会10人にすればどうなのかという気もするわけです。そうすれば活発な議論は十分可能じゃないかなと思うんですけども、そういうことに対しての答弁といいますか、考え方に対してどう感じておられるのか御説明いただきたいと思います。

◆有松議員 ありがとうございます。

どなたか回答いただけますでしょうか。

上紙副委員長。

◆上紙議員 ありがとうございました。

おっしゃる説もこれ間違いじゃないと思います。とにかく基本的にこの議員定数、平成23年の5月以前までは正しいか正しくないか、ふさわしいかは別として上限が定められておりましたから、それを一つの目安として、それから何ぼ下げるとか、余計はできんわけですから、というふうなことを目安に置いて、今回どの議論が正しくて、どうは間違いでというようなことがなかなか見出せないというのが、私のまちだけじゃないと思いますんですけども、なかなか難しい。今おっしゃってましたように、3委員会にすればちょっとふえて活発な議論ができるんじゃないかとおっしゃるのも、これ正しいと思いますよ。けれども、全体的な全市の今、両川委員が申し上げましたように、鳥取市の特例市の中で本当にトップクラスの市域を持つてる市としては、全

体として32人ぐらいは必要ではないだろうか。その中で4委員会を保持するということが二次的にむしろ出たわけでございまして、それも一つの要素として、だけその辺のところを減らして3委員会、3委員会ということになりますとなかなか分掌事項が多くなりますし、また形態が変わってくると思いますし、私どもとしてはそういう意見も間違いだと絶対ないと思いますけれども、4委員会で8人程度は保持したいなという委員全体の気持ちでこういう結論に達したわけでございます。多くの要素を含めてでございますので、御理解をいただきたいと思います。済みません。

◆有松議員 私どもの持ち時間がだんだん少なくなってまいりました。もう少し御質問お受けしたいと思いますが、これ以降質問をしたいという方はちょっと手を挙げてみていただけないでしょうか。

じゃあ、今お一方が手が挙がっておりますので……（発言する者あり）じゃあ、お二方ということで、とりあえずこの議員定数に関する質疑の部分は、限られた時間ですので、とどめさせていただくということで、まず上段のお座りの方、御質問どうぞ。

○質問者 F Fといいます。今、議員定数非常に問題になっておりますけど、こういうことが問題になるのは議会の先生方の動きが市民に見えないからだとは思ってらんです。（拍手）それで今も委員会8人と言われましたけど、例えば委員会でも8人の人が、あれ年に多いときで5回前後でしょう。それも何日もかかる審議の内容でないですね。提案されたものを、これ恐らく変更もなしに全部通つとると違うんですか。ちょっとそれ中はわかりませんが、それと市民のニーズを酌んでどういう策が反映されたかということが全然見えないんです。これが見えればもっとみんなの関心が行くと思います。例えば今年予算にしてもまず考えるのは、地域づくり懇談会であるとか地区要望であるとか、そういうものが上げられると思いますけど、何を議員さんがくみ上げて、いわゆる自分の要望、会派の要望として市にこれを出しましたよということがみんなに見えてない。何がどうなってるかわからないということが一番大きな問題だというふうに思っております。

それと一番それを解決するには、いろんなこのように委員会なんかみんな入られますけど、いわゆる地区の担当決めて動かれたらどうですか。例えば国府1人であるとか、市内であれば3つの公民館を一つ担当されて年間通して見ていく。大体年間3回見られたらいいと思うんです。これも自治会長を集めてください。それで要望聞いてください。そうしないと全然末端の声が上がりません。だから皆さん方は会議あるところには顔出されますけど、自分が主催して集めて意見を聞くということがないからみんなの不満が出ると思いますので、ぜひもっとやってほしいなというふうに思います。だから数の問題になる前に皆さんの動き、やってください。特にこの新市に課題が山積みをしておるとのこと。8年たってまだ山積みだと書いておられます。だけ何が残って、何をどのように解決しよられるか何にもわかってないです。だからちょっとその辺のところもはっきりとどんな山積みの問題があって、数がようけ要るんだよ、という表現なってますけど、そのようなこともわかるように課題の説明をお願いします。以上です。（拍手）

◆有松議員 これは御意見ということでとどめさせていただいてよろしいでしょうか。

委員の皆さんの方からコメントいただければありがたいですけども。

このことについては委員としても、私は司会ですけども、なかなか皆さん方にそれぞれの議員さん方、議会活動をお伝えしたいという努力をしておられる議員さんは結構たくさんいらっしゃるんですけども、我々がそういった場を地元をお願いするに当たってはなかなか、また選挙絡みのことかなということで集まっていただきにくい環境も現状としてあるということもお伝えをしておきたいと思います。なかなか集まっていけないと。そんな話を聞くよりはというようなことが結構年間を通して我々は二の足を踏んだる状況もございますので、そういった部分を含めて大変貴重な御意見ということでとどめさせていただければというふうに思います。

もうお一方、どちらだったでしょうか。どうぞ。最後の方ということでよろしくお願ひしてます。マイクを持っていきますので、少しお待ちください。

○質問者G 先ほどのFさんが皆説明してくれましたんで、ほとんどしゃべることはないんですけども、基本的にやっぱり議員さんの顔が見えないんですよ、市民に。皆さんは一生懸命やっているとされますけども、つながってないんですよ。だからつながる行動起こしてください。言いわけじゃなくて。それだけです。（拍手）

◆有松議員 ありがとうございます。拍手も起こっておりますので、今壇上における議員はしっかり受けとめとるというふうに思いますので、今後のまた我々の活動を見守っていただければというふうに思います。

我々のこの定数に関する時間、2時半ということをおある程度めどにしておりましたので、大変残念でありますけども、以上で質問の時間を終わらせていただきたいと思います。